

式辞

空にある太陽も少しずつ力強さを増し、日差しの中にもぬくもりを感じることでできる、春の今日の良き日、大阪府立日根野高等学校第 33 回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、コロナ過の中にもかかわりませず、多くの保護者の皆様方のご臨席を賜り、本当にありがとうございます。高いところからではございますが、教職員一同を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今卒業証書を授与いたしました 234 名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今日、皆さんは本校での3年間の業を終え、どのような思いを心に持ち、この場所にいるのでしょうか。およそ3年前、本校における入試の合格発表に日に、自身の受験番号を見つけた感動の日から、本当にあったという間に駆け抜けた3年間であったのではないのでしょうか。

その皆さんの日根野高校野での日々を思い起こすときに、新型コロナウイルスのことを避けては通れないと思います。本校に入学し、日根野高校にも慣れ、充実した日々が訪れつつあった1年生の冬、突如として巻き起こったこの騒動は、2年以上たった今も世の中を揺り動かし続けています。

結果として、皆さんの高校生活での貴重な体験も、多くが中止や縮小の憂き目を見ることとなってしまいました。

人生において、このような困難を伴うアクシデントは次々と訪れることとなります。平穏無事な日々が長く続くことはあまり多くはないのではないのでしょうか。そして、このような困難に出会ったときに、人はどのような対応をとるのかを試されているのではないかと思います。「コロナさえなかったら…」「コロナのせいで…」ひょっとすると、こんな負の思いを持っている人も中にはいるのかもしれない。

起こってしまったこと、過ぎ去ってしまったことを悔いてみても、何も前に進むことはありません。こんな言葉があります「過去と他人は変えられない。しかし自分自身と未来は変えることができる」自分自身の明るい未来を築くためにも、前向きな生き方をしてほしいと思います

先日閉幕を迎えた北京オリンピックの銅メダリストの坂本選手は、自身の運の強さの理由を問われたときに、「何があってもプラス思考でポジティブに考えること。あとは整理整頓」と答えたそうです。皆さんもぜひ参考にしてほしいと思います。

また、今日私から皆さんに伝えたい言葉として、徳川家康の遺訓とされる「人の一生は、重き荷を背負いて、遠き道を行くがごとし」というものがあります。生きることはそれだけで大変なことの連続であるということです。そしてこの言葉は人生の大変さを示しているだけでなく、大変であることを普通のこと、当たり前のことであるとしてとらえ、そのうえで、前向きな努力を促しているのだと思っています。

この重たい荷物を常に背負って歩き続けるような大変な人生を、足下を、下を見ながらうつむいて歩くのではなく、前を、広く開けた青空を仰ぎ見て、一步一步坂道を上り続けるような努力を積み重ね、その先にある高みをめざしていく、そういう生き方を送ってほしいと思います。

それでも時には、その荷物が重すぎて我慢できない時も訪れるかもしれません。そんなときには、この日根野高校で出会った、多くの友達や仲間の、また先生の力を頼ってください。

皆さんが本校の入学式の時に見たであろう、校門前の桜の木も少しずつではありますが、つぼみが膨らみ始めています。桜の花は厳しい冬の寒さがあるからこそ、美しい花が咲くのだそうです。また、人が高く跳びあがるためにはその前に深く沈みこむ必要があります。人は逆境の中でその力を蓄えることができるのです。皆さんはこの日根野高校で蓄えた力をばねにして、この4月から始まる新たな世界に向かって大きく跳びだし、羽ばたいていってください。皆さんがまわりに笑顔を振りまくことでできる素敵な人として、これからも幸せな人生を送ることができるよう、私たちも陰ながら応援していきたいと思っています。

最後になりましたが、今日のこの日を誰よりも心待ちにし、日々様々なご苦勞を重ねてこられました保護者の皆様方に心より敬意を表します。また今日までの3年間、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

さあ、名残は尽きませんがいよいよお別れです。皆さんの前途に洋々たる未来があらんことを祈念し式辞といたします。